



早稲田大学平山都夫記念ボランティアセンター 准教授 兵藤智佳先生(写真左:北海道立倶知安高校卒)2002年の同センター設立以来、学生ボランティア活動支援のなかで、気持ちを起点とした振り返りの重要性を痛感。現在の授業の基礎を2009年までに作り上げ、全学での取り組みへと広げてきた。TA・教育学部5年 河村佳奈さん(写真右:神奈川県立湘南高校卒)ボランティアセンターを通じて行った福島での復興支援ボランティアで、大きな衝撃を受ける。「体験の言語化」授業で自分の気持ち・感情を言葉にする難しさや面白さを体験し、TAを志願した。



『体験の言語化』  
早稲田大学平山都夫記念  
ボランティアセンター(編)

授業の成り立ちや具体的な取り組み内容、理論的背景など、さまざまな視点から紹介されている。同著には収録されなかった、実践者向けのガイドブックは、2017年冬に発売される予定。高校における体験学習の振り返り向けに、90分1回バージョンのガイドも付録される予定だ。

## コラム1 「体験の言語化」授業の構成

- 1回目 参加授業の心構えと目標設定  
＜授業解説・グループワーク＞
- 2回目 振り返り(個人の体験)①  
体験を思い出し、自分の気持ちを振り返る  
＜ペアワーク＞
- 3回目 振り返り(個人の体験)②  
相手の事情と気持ちを想像する  
＜ペアワーク・ロールプレイ＞
- 4回目・5回目 振り返り(社会課題)  
体験からつながる社会の課題を発見する  
＜個人ワーク(マッピング)と全体共有＞
- 6回目 発表の構成をつくる  
(個人の体験と社会の課題をつなげる)  
＜グループワーク＞
- 7回目・8回目 「語り」発表とディスカッション  
＜語りと相互評価＞

## ●授業ルポ



この日は、6回目の「個人の体験と社会の課題をつなげる」授業。冒頭で昨年の先輩の「語り」発表DVDを観て、体験と社会の課題のつながりを具体的にイメージ。その後、個人ワークでそれぞれの体験で感じた自分の気持ちをマッピングし、そこから社会のどのような課題につながるかを連想していく。個人ワークで黙々と進める人もいれば、TAの協力を仰いで自分の気持ちを掘り下げていく人も。「一つの体験を、これほど深く考えるのは初めてで新鮮です。しかも、人に話したり聞いたりすることで、感情がどんどん膨らんでくるのが面白い」とは、教育学部1年の生井朋樹くん。人間科学部2年のT-Rさんも「大学に入学してからたくさんレポートを書くなかで、自分の考えや気持ちをうまく言葉にできずもどかかったの、この授業を受けました。ペアワークやグループワークなどを通じて他者の目線で自分を振り返ることができて、とても参考になります」と言う。授業の最後には、希望者が率先して皆の前で自分のマッピングを披露。行き詰まっている箇所に、クラスのメンバーから「そこで何を感じていたの?」などの突っ込みを受けながら、自分の気持ちの揺れ動きを言語化していった。

※授業シラバスやループブック、授業に関する問い合わせは以下HPへ  
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/open/contextualize/>

# 体験を自分なりの言葉で表現するヒント

## 「自分事」にする

夏休みの職場体験やオープンキャンパスなどさまざまな体験を、自分事として捉え、自分の言葉で表現できるように促すヒントを取材しました。取材文/清水由佳ライター・キャリアアカウンセラ

## 心にひっかかった場面を起点に 多面的多層的に感情を思い出す

早稲田大学では、2014年から3年間かけて、「体験の言語化」という授業を確立してきた。その背景には、さまざまな国内外での経験も「やばい」「すごい」としか表現できない学生に危機感があつたからだ。この授業の開発を担当した一人、早稲田大学平山都夫記念ボランティアセンター准教授・兵藤智佳先生は語る。

「体験の振り返りをするなかでありがちなのが、活動に関する客観的なデータや概念などを文献やグーグルで探し、日本でも関連する問題があることを指摘し、その対策について提言としてまとめるというような発表です。確かに客観的に正しい発表ではあるのですが、本人が体験したことはほとんど語られず、自分とは直接つながらない外の世界の出来事として眺めて終わってしまいます。一方、大きく感情が動いた場面一つを選び出し、自分の気持ちに焦点を当てて振り返っていくと、自分がなぜその気持ちを抱いたかという自分とのつながりを実感し、そこからさらにオリジナリティ

のある社会の課題につなげていくことができます。結局、体験したときの自分の、気持ちに焦点を当てた振り返りが、とても重要なんです」

ところが、「気持ち」に焦点を当てようとする、学生の多くは戸惑う。TA(ティーチング・アシスタント)の河村佳奈さんもそうだったという。

「福島でのボランティア体験を思い出すと、ポロポロ涙がこぼれてくるのですが、その気持ちを言葉にできない。すぐにもどかしい思いをしました。でも、何度も繰り返し問われることで、徐々にその感情を表現できる言葉が見つかっていくんです」(河村さん)

ペアワークやロールプレイで「相手の気持ち」も想像してみたり、その気持ちどこから派生しているのかキーワードを数珠つなぎにマッピングすることによって社会課題ともつなげていくことができた。多面的多層的に「気持ち」と向き合うことによって、漠然としていた「もやもや」が、次第に自分の言葉として表現できるようになるのだ。授業を受けている社会科学部2年・飯泉美玲さんは、「段階的に自

分の気持ちに気付いていくことができ、感情に名前がつけられるようになる」と、感想を語ってくれた。

## 資料のない「語り」によって 自分の言葉で表現していく

さらに、「自分なりの言葉で表現する」ための工夫が、早稲田大学ならではの「語り」での発表にある。

「最近の学生は、パワーポイントなどを使った発表がとて上手です。しかしそれは、自分の言葉ではなく、ツールに頼った発表に陥りがちでもありません。そこで、まったく資料を使わず、語りで伝えることにこだわりました」(兵藤先生)

何を説明すれば他人が理解できるのか、どこに焦点を当てると話がわかりやすくなるのか、自分なりの表現とどのようなものなのか。学生たちは、何度も試行錯誤して「語り」を深めていく。

「学生には、安易な発表テクニックやスタイルを真似るのではなく、自分の思考の流れが無理なく論理的に伝わるように意識してもらいます。そのため、先輩たちの発表映像からゴールを具体的にイメージし、自分の体験を語れるように促しています」

## 教員の役割は、 安心・安全な場の確保

現在、早稲田大学の「体験の言語化」授業は、7人の教員によって25クラス実施されている。そのため、誰が行っても同じように授業が進められるよう、詳細なガイドブックを作成している(年末に書籍化予定)という。

「教員は、あくまでもファシリテーターとしてその場にいることが大事です。教えたり、導いたりするのはなく、学生の思考を助けていく存在。学生が自分の気持ちを口にし、思考を深めていく安心・安全な場をいかに作っていくかが大切です」(兵藤先生)

そのために特に授業開始時にしっかりと押さえておくべきグランドルールと、自己開示をしていくにあたって配慮すべき内容をコラム2で紹介する。

「生徒の気持ちを振り返っていく過程では、時には本人が触れられたい過去や経験を思い出させることになったり、クラスの中の思わぬ人間関係を刺激することになる可能性もあります。そこで、まずは、職業体験やオープンキャンパスなど、学校外での体験学習の振り返りで行っていくと、やりやすいのではないだろうか」

## コラム2 授業で特に押さえておくべきポイント

「授業のグランドルール」と「自己開示ガイドライン」は、プログラムをスタートする前にプリントを配るなどして、クラス全員が理解しておくことが大切。

### 【授業のグランドルール】

- 相手に共感的な態度で聞く
- 聞く側も相手に対する想像力を使いながら質問する
- その場面で映像として想像でき、共感できるような情報を聞き出す
- 表現された言葉を受け、そのときの本人の気持ちを思い出させる質問を繰り返す
- その場面での自分の気持ちは多層的であることを前提に、それらを引き出す質問をする
- 相手の話を否定したり、価値判断や道徳的な判断をしない
- 相手の気持ちを確認しながら質問を重ねる

### 【自己開示ガイドライン】

- 授業で聞いた他人の話は、本人の了解なく勝手に他言しない(他言されるリスクもあることをわかったうえで、自分が話すことの内容を意図する)
- 自分のことを話すのは、予期せず感情が揺れることもあることを知っておく
- 自分が話したくないことは、話さないように意識する
- 話したくないと感じたときは「それは話したくないです」と相手に伝える
- 話しているうちにそのときの気持ちを思い出して辛くなってきたら話すのを聴くのもいいんだよ
- 辛くなってきたら、授業のあとでも教員に伝える

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

# Career Guidance

キャリアガイダンス



【最新号】Vol.418 2017年7月発行

### ■特集

変わる大学入学者選抜

何を問うか、どう育むか

【Introduction】動き始めた大学入学者選抜

小林 浩(リクルート進学総研 所長)

【Case study】個別大学の入学者選抜の今

京都大学/鎌倉女子大学/北陸大学/藤田保健衛生大学/早稲田大学

【Report】ここまで進む! 中学入試

聖学院中学校(東京・私立)/香里ヌヴェール学院中学校(大阪・私立)

【Case study】生徒の個性を伸ばす学び

香椎高校(福岡・県立)/園部高校(京都・府立)/南陽高校(愛知・県立)

### ■連載

●進路指導実践を磨く!

川和高校(神奈川・県立)

●教科でキャリア教育【英語】

堤 孝先生 田名部高校(青森・県立)

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)

バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/](http://souken.shingakunet.com/career_g/)

キャリアガイダンス

検索